

【平成30年度 第2回 外国籍市民施策懇話会議事要旨】

日時 平成30年10月26日(月) 14:00～15:30
場所 市役所 東館1階 会議室6
出席者 委員…石田、嶋原、高橋、田中、長山、野間、森
関係職員…学校支援室 桑原室長補佐
事務局…馬場課長、加藤係長、真野
傍聴者 なし

1. あいさつ

高橋会長より挨拶。通訳意見交換会と合同で開催のため委員、通訳の自己紹介。

2. 多文化共生関連事業の取組状況について

(事務局)

- ・庁内に行った多文化共生計画調査について、業務に使用されているパンフレット等を提示し説明。

(委員からの意見)

- ・通訳の訪問はどのような内容で、どれくらいの頻度で行っているのか。
 - 赤ちゃん訪問が多く、月1件くらい。
 - ポルトガル語以外の通訳はできているのか。
 - できていない。
 - 親よりも子どもが話せることがあるので、子どもが通訳になっている。
- ・国際交流協会では交通安全教室を行った。2月くらいには防災教室を行う予定でいる。受講は日本語教室を早く切り上げて行っている。
- ・外国の人には字はできるだけ少ないほうが良いと思う。写真を使うほうが良い。
 - 文書は短くて大事なところだけのほうが良い。文書の最初は読むけど、3行目以降はほとんど読まない。
- ・労働支援について、外国から来る人は日本に来る段階で仕事が決まっていることが多い。仕事をやめたときの支援をどうするのか。
 - 労働支援とは労働環境についてなのか、就職支援についてなのか。
 - 両方。企業へは市から一方的に情報提供をしているのみ。
 - 企業側としては長く勤めてもらいたいので、外国人が豊明に住む上での生活情報の提供や地域とのコミュニケーションはしてほしいのではないか。
 - 企業が日本語教室の授業料を払う例もある。
 - 企業関係者に委員へ入ってもらいたいのもいいのかもしれない。
- ・コミュニティづくりについて、団地では避難訓練にブラジル人が多く参加していた。ベトナムの方もボランティアに参加している。

- 外国の方が相手だと一歩引いた関係が多い。
- 団地の広場でベトナムの曲や踊りをしているときがあって市内外で 100 人くらいが参加をしていた。苦情があったみたいだが、参加した人たちは良かったと言っていた。
- 地域で集まるのもコミュニティだから、市が入らないと団地だけで終わってしまう。帰国する人もいるから住民とは限らない。どのようなコミュニティが理想か。
 - 地域自治に入ってもらうのが理想。
 - つながりたい人はつながるけど、そうではない人の情報はわからない。イベントだけでは今と変わらない気がする。
 - 中国人の方で中国の人に会ったことがない人もいる。コミュニティの作り方がわからない人が多い。
 - 自国の文化を家庭だけで伝えるのは難しい。同じ国の人同士でつながりたいとは思っているはず。外国人のつながり方として Facebook や Twitter が多い。
 - 最近は WhatsApp や LINE も多い。
 - どこに行けば Wi-Fi があるのかを示してみるのもいいかもしれない。

3. 通訳業務各現場の現状と課題について

(通訳との意見交換)

- 通訳での悩みやどの時期が忙しいはありますか。
 - 中学校は受験期が忙しい。翻訳は月末が忙しいので、できれば意見交換会も夏休み前の月末以外が望ましい。
 - 保育園では月末と年度末が忙しい。
 - 小学校では家庭内で子どもが日本語しか話さないからコミュニケーションが取れないことがある。
- 中学校、小学校、保育園はそれぞれどんな業務を行っていますか。
 - 朝は親と子どもが来るかどうか、来ていない人への連絡をすると 1 時間くらいかかる。その他に体調不良の子のケア、進路書類の翻訳、給食を食べられる・食べられないについて確認など。(中学校)
 - 休みの連絡、お母さんの相談、怪我をした子どものお母さんへの連絡、絵本を読むなど。(保育園)
 - 朝は電話対応、全クラスの支援。日本語が通じない子どもを優先的にすることが多い。給食の問題はあまり多くはない。月末に翻訳があり、説明会や受付に参加することもある。(小学校)
- 就学時検診について簡単な日本語の行動（手を挙げるなど）がわからなかったが、母語なら簡単にできていた。学ぶ方法は何がいいと思うか。
 - お家でポルトガル語を使っているとポルトガル語が話しやすくなって、日本語は難しいと思ってしまう。
 - プレスクールがいいと思う。家庭は自分の言葉を使ってしまうから学校に力を入れたほうがいい。
 - 保育園ではポルトガル語で話す場ができてしまっている。

→小学校だと通訳を頼ってしまうから日本語が伸びない。日本語を学ぼうとする子は伸びるけど、他の子は伸びない。

→中学校でも頼ってしまうと伸びない。

- 保育園に通っていない子どもはどのように日本語を学べば良いか。

→プラスエディケートに通ってくれば教えられる。保育園に通っていない子は体力もなく、友達の作り方もわからない。まずはお母さんから離れる努力が必要。

- 市では通訳は増やさないのか。

→今のところは予定していない。

→働きに来て中学から入る子どもだとブラジル人は日本語を学ぶ機会に恵まれず過ごしてしまう人が多い。

- 通訳の仕事は通訳の枠をこえてトータルケアの仕事になっている。

4. 友好都市受け入れ事業アンケートについて

(事務局)

- 豊明市に来訪した子どもに行ったアンケートについて説明。

5. その他

次回開催日 平成30年1月25日(金)午後6時30分から